

令和6(2024)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
(研究成果公開促進費)「研究成果公開発表(B)
(ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」
実績報告書(プログラム実施報告書)

課題番号： 24HT0064			
プログラム名： 成長することばーことばを学んで、オリジナル絵本を作ってみよう！			
所属 研究 機関	名称	多摩美術大学	
	機関の長 職・氏名	学長・内藤 廣	
実施 代表者	部局	美術学部	
	職	教授	
	氏名	高梨 美穂	
開催日	受講対象者	募集人数	当日の 参加者数
令和6年10月26日	■ 小学校5年生 ■ 小学校6年生 ■ 中学校1年生 ■ 中学校2年生 ■ 中学校3年生 □ 高校1年生 □ 高校2年生 □ 高校3年生	20人	16人
実施場所	多摩美術大学 上野毛キャンパス		
プログラムの目的 本プログラムは、ことばとその成長を客観的に捉え、ことばを意識的に使って絵本を作成することを通じて、新たな発見を導くとともに言語学への基礎的導入を促すことを目的とする。 普段何気なく話していることばを科学的に分析することで、受講生に「ことばとは何か」「ことばの研究から何が見えるのか」「ことばはどう発達していくのか」を考えてもらう。実習においては、多摩美術大学の特色である美術を取り入れ、受講生自らが生み出したことばを絵本という形として美的に表現することを通じて、言語表現と美術表現について気づきを促し、両者の接点を考えてもらう。アルバイト大学生との積極的な交流を取り入れており、大学での学びについても理解を深めてもらいたい。			

プログラムの実施の概要

• プログラムを留意、工夫した点

プログラムは、事前学習、講義、実習、発表・ディスカッションの4段階に分け、講義形式でのインプットから作品作成というアウトプットまで、講師、学生アルバイト、受講生との間でのコミュニケーションを伴う体験型プログラムとした。大学での学びや研究および科研費による成果などについては、スライドを用いて具体的に取り上げて説明した。休憩時間に希望者に対して、学内の見学会を催すなどを含め、大学で研究する魅力について十分に発信することができたと考える。

プログラムの具体的な内容については、以下のとおりである。

【事前学習】

当日の効果を高めるために、ことばに関する気付きを高める課題として、受講生に実習で作成する絵本・小冊子の大枠を考えてきてもらった。

【講義】

講義 「ことばの研究（入門）」では、ことばの仕組みに関する基礎的な講義を行った。講義 「ことばを科学してみよう！」では、講師が分析方法を提示した上で、クイズ形式で、受講者にことばを分析してもらった。これらは午後の実習に向け、講義から学んだ方法を用いて、自ら計画的にことばを操り、イメージを具現化させるためのウォームアップとした。講義形式においては、講師が受講生へ質問する、また各受講生へ個別にコメントするなど、双方向性の講義となるよう務めた。

【実習】

実習はグループで行った。各グループに学生アシスタントを1名ずつ配置し、講義で学んだ方法を用いてオリジナル絵本を作成した。実習 「ことばを生みだそう！」では、事前学習を基にオリジナルの文章を書く作業を行った。実習 「絵本を作る方法を学ぼう！」では、絵本を作る上での方法として、ドローイング、スタンピング、コラージュ等の技法を学んだ。実習 「絵本を作ってみよう！」では、実習で学んだ技術を取り入れて、オリジナル絵本の作成を行った。終了後は、完成作品の発表会を行い、参加者全員でプログラム体験の共有・言語化を行った。実習では、声かけを行い、講師および学生アシスタントが受講生と気楽に相談しながら作業が行える雰囲気になるよう、十分に配慮した。

• 当日のスケジュール

9:45-10:00 受付（集合場所：多摩美術大学上野毛キャンパス CUBE 1F）

10:00-10:15 開講式（挨拶、オリエンテーション、科研費の説明）

10:15-10:40 講義 「言語学者に変身！—ことばの研究（入門）」

10:40-11:00 講義 「言語学者に変身！—ことばを科学してみよう！」 休憩（10分休憩）

11:10-11:35 実習 「絵本作家に変身！—ことばを生みだそう！」

11:35-11:50 午後の説明と用具の確認 グループ自己紹介（11:50-12:50 昼食・休憩）

12:50-13:40 実習 「絵本作家に変身-オリジナル絵本を作る方法を学ぼう！」（10分休憩）

13:50-16:15 実習 「絵本作家に変身！—オリジナル絵本を作ってみよう！」

（14:40-15:00 クッキータイム/適宜休憩）

16:15-16:40 完成作品の発表、ディスカッション、まとめのお話

16:40—17:00 修了式（アンケートの記入。未来博士号の授与）

● 実施の様子



講義



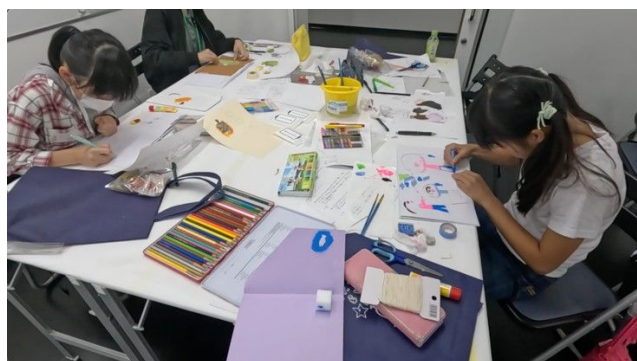
講義



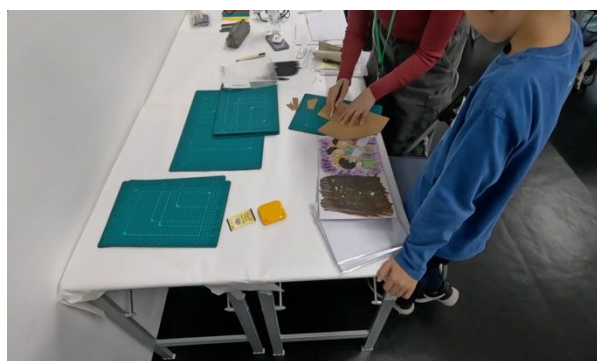
実習



実習



実習③-1



実習③-2



完成作品発表会



完成作品発表集合写真

- 事務局との協力体制

- ・ 研究支援課が振興会への連絡調整を行い、経費の管理や提出書類の確認・修正等を行った。
- ・ 広報活動は、実施者、研究支援課、広報課が協力して行った。
- ・ プログラム当日は、運営に研究支援課員も加わり、実施した。

- 広報活動

- ・ 大学ホームページの掲載や SNS を活用し、本プログラムの情報発信を行った。
- ・ 募集案内チラシ、ポスターを作成し、学内に掲示および関係機関へ配布等、プログラムの PR を行った。

- 安全配慮

- ・ 受講生の安全確保のため、各グループ(4 名)に 1 名の割合で学生アシスタントを配置するほか、学生アルバイトのサポートに美術の専門家(卒業生/実施協力者)を 1 名、事務職員 3 名配置し体制を整えた。
- ・ 不慮の事故等の対策として、実施協力者には事前に打ち合わせとシミュレーション等の安全講習を行った。
- ・ 受講生、実施協力者(学生アルバイト・卒業生)については、短期のレクリエーション保険に加入した。
- ・ 刃物や器具を使用する際は、安全に配慮した形態のものを用意するほか、監督者を配置した使用可能区域を設け、怪我の防止に努めた。
- ・ 受講生の食事については、アレルギー等について、事前に本人・保護者に確認し、対策を講じた。
- ・ 参加者の事故・怪我・体調不良等の対応について、大学保健室と協力体制を整えた。
- ・ 実施前に受講生・保護者に対し、本プログラムの概要や申込時の個人情報の取り扱い、実施時の写真撮影、撮影画像の使用等の説明書類を送付し、予め同意を得た。実施当日は、受講生に緊急連絡先を記入した緊急連絡票を提出してもらい、保護者と連携を取れるよう体制を整えた。また、不審者等が入ることが無いよう、見回りを十分に行うなどの対策を行った。

- 今後の発展性、課題

- ・ 完成までたどり着けない受講生もいるため、時間内で完成させる方法や持ち帰り完成させる方法などを考慮したい。
- ・ 完成作品の発表は、美術館の見学のように見学会方式を中心とし、一部講評を加えた。次回は、講評時間をもう少し取る、受講生の間で講評するなどの方法を組み入れることなどを行うなど、より効果的な発表会の方法を模索したい。